

飯舘村で研修、行動力養う

し、他大学の教員や学生と交流できるとても良い機会でもあった。

福島第1原発事故後、

研究室から

大学はいま



教授 准 水 季 住 濱

ちの研究を通して、学生が物理的な考え方を学び、自分で調べ、考え、行動する力を取得できるよう指導を行っている。

私の研究室では物質の最小単位であるクォークと呼ばれる粒子で構成されるハドロンという粒子の研究を行っている。極めて小さい物質の成り立線研修に参加した。

教育学部
大教育学
岐阜理科

飯舘村には5日間滞在した。土壌の放射線量を測定する実習や講義、討論に参加し、村の方々と交流する機会もあった。研修にはさまざまな分野の大学教員が参加している。放射線に関する物理的・医学的な知識だけでなく、放射線量を吟味する上で避けては通れない統計学、さまざまな放射線の規制を定めている法律、さらには社会学といった幅広い知識を系統的に取得できる内容となっていた。大学を飛び出

放射線に対する関心が高まり、さまざまな情報が得られるようになった。一方、放射線に対する不安から農作物の風評被害や学校や職場でのいじめといった問題も起きていた。学生たちはこの研修に参加することで、科学的に整理された系統的な考え方を学ぶことができ、学生たちが自分で考え、正しく判断し、行動できる能力を養い、社会に出てから活躍できる人材となるように願っている。